

研究協力のお願

ホスピタル坂東、リハビリテーション部では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

多施設共同研究による大腿骨近位部骨折を受傷した精神疾患患者の理学療法終了時 FIM 運動項目得点に影響する因子の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2011 年 1 月～2017 年 10 月に当院に入院し大腿骨近位部骨折に対するリハビリテーションを受けられた方

2. 研究目的・方法

大腿骨頸部／転子部骨折ガイドラインでは、術後の歩行能力回復に影響する因子として、年齢、受傷前の歩行能力、認知症の程度が挙げられています。また、大腿骨転子部骨折術後の歩行能力低下の原因として、精神疾患の合併を指摘している報告もあります。このように、認知症や精神疾患の合併は、一般的に術後成績を悪化させる要因とされていますが、臨床では認知症や精神疾患を合併していても歩行能力や Activity of Daily Living (以下、ADL) が回復する症例を経験します。また、精神疾患を合併する患者の術後成績については、精神疾患がない患者と比べて同程度であるという報告も複数あり、一定の見解を得られていません。

その背景には、精神的治療を継続しながら術後のリハビリテーションが実施できる施設が限られていることや、理学療法（以下、PT）領域の研究において、精神疾患患者は対象から除外されることが多く、精神疾患患者に対する大腿骨近位部骨折術後の PT に関する研究が少ないことが考えられます。

本研究では、精神疾患を合併した大腿骨近位部骨折患者の ADL 回復に影響を及ぼす因子を明らかにすることを目的に多施設共同研究を行うこととしました。

研究期間

2019 年 1 月～2019 年 12 月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、精神疾患名、合併症の評価として Charlson Comorbidity Index、骨折の種類（頸部骨折・転子部骨折・その他）、術式（骨接合術・人工骨頭置換術・その他）、受傷前の歩行自立度（自立・非自立）、受傷時の生活場所（自宅・自宅以外）、手術から PT 開始までの日数、PT 実施期間、PT 開始・終了時 Functional Independence Measure（以下、FIM）とし、診療録より後方視的に調査する。

4. 外部への試料・情報の提供

個人情報の保護のため、取得した診療情報は匿名化情報（個人情報を含む）にする。得られた診療情報はパスワードをかけて保存する。また、得られた全ての情報を本研究の中止または終了後少なくとも 5

年間、あるいは研究結果発表後3年が経過した日までの間のどちらか遅い期日まで保存・管理する。
得られた成果は、個人情報保護に配慮したうえで学会や論文に発表される。

5. 研究組織

研究責任者	秋津鴻池病院	石橋 雄介
共同研究者	平川病院	上藺 紗映
	ためなが温泉病院	下平 貴弘
	山容病院	池田 拓洋
	ホスピタル坂東	倉持 正一
	芸西病院	加賀野井 聖二

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

所属：リハビリテーション部 氏名：倉持 正一

住所：306-0515 茨城県坂東市沓掛 411 電話番号：0297-44-2000